

外邦図研究グループが日本国際地図学会特別賞を受賞

2010年2月27日（土）、日本国際地図学会、平成22年度通常総会（日本地図センター、2階研修室）において、外邦図研究グループに対し、日本国際地図学会特別賞が授与された。この「特別賞」は、毎年受賞者を定める「学会賞」とは異なり、地図学に特別な貢献があった人や団体を対象とする賞で、数年前に同学会に表彰制度ができて以後、最初の授賞となるものである。授賞理由に示されているとおり、外邦図研究ならびに外邦図デジタルアーカイブの構築が評価されたものである。表彰式のあと、出席していた外邦図研究関係者ととともに記念撮影を行った。

特別賞：外邦図研究グループ（代表 小林茂会員）

外邦図研究グループは、貴重な学術資料である外邦図について、地図学的・地理学的な研究を行うだけでなく、それを集成し、デジタルアーカイブ化を進めてその公開を図ってきた。2008年には日本国際地図学会定期大会でシンポジウム「外邦図の集成と多面的活用—アジア太平洋地域の地理情報の応用をめざして—」を開催するとともに、機関誌「地図」に宮澤 仁・照内弘通・山本健太・関根良平・小林 茂・村山良之を著者とする「外邦図デジタルアーカイブの構築と公開・運用上の諸問題」を著し、活動の意義や成果を明らかにしている。さらに2009年には、小林茂会員を編者とする『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域』（大阪大学出版会）を刊行し、アジア太平洋地域の国際的な視点も含めた研究成果を明らかにした。この一連の活動は、日本の地図史料の保存と活用、地図文化の継承を図り、地図学の発展に大きく貢献するものであると認められる。



表彰式のあとの記念写真：左から今井健三、鈴木純子、清水靖夫、小林茂、宮澤仁、塚田野野子、金窪敏知、山本健太の各氏